

**WEEKLY SIGNAL**

2020年7月17日(金) 1533号

**上田八木短資株式会社**

**来週の市場とレート予想**

	7/20(月)	7/21(火)	7/22(水)	7/23(木)	7/24(金)
無担保O/N		△ 0.087% ~ 0.001%			
銀行券	+ 1,000	△ 1,000	△ 1,000		
財政他	△ 12,000	+ 3,000	△ 4,000		
資金需給	△ 11,000	+ 2,000	△ 5,000		
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M・1Y) 国債償還(変動15年)		国債発行(20年)		
オペ期日	CP等買入 △ 300				
オペスタート	国債買入 + 12,400			海の日	スポーツの日
(日本)	日銀金融政策決定会合 議事要旨(6月15・16日分) 貿易収支(6月) 輸出(前年比)(6月) 輸入(前年比)(6月) コンビニエンスストア売上高 (前年比)(6月)	全国CPI(前年比)(6月) 全国百貨店売上高 (前年比)(6月) 工作機械受注(前年比)(6月)	日銀営業毎旬報告(7月20日現在) スーパーマーケット売上高 (前年比)(6月) 月別経済報告(7月)		
(海外)		米 上院銀行委員会、シェルトン ウォーナー両氏のFRB理事指名で採決	米 FHFA住宅価格指数(5月) 米 中古住宅販売件数(6月)	米 新規失業保険申請件数 (7月18日終了週) 米 景気先行指標総合指数(6月)	米 新築住宅販売件数(6月) ユーロ圏 総合・製造業・ サービス業PMI(7月)

**<インターバンク市場>**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.040 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.035 ~ 0.040
SPOT 3M	0.000 ~ 0.070
SPOT 6M	0.000 ~ 0.130

**<インターバンク>**

日銀当座預金残高は週初447兆3,000億円から始まった。14日には源泉税揚げで445兆円台まで減少した。その後、国庫短期証券買入や米ドル資金供給用担保国債供給の期日などを要因として増加し、週末には448兆9,900億円となった。  
無担保コールON物加重平均金利は週初△0.019%で始まり、積み最終日となる15日には△0.014%まで上昇した。新積み期入り後、16日は△0.05%まで低下したものの、週末3日積みとなる17日は0.037%となった。ターム物は、1W~1Mの期間で、△0.050~△0.030%の出合が見られた。  
7月14日に実施された国庫短期証券買入オペのオファー額は3兆円と、前回オファー分(7月7日、オファー額2.5兆円、応札倍率2.83倍)から5,000億円の増額となった。応札倍率は1.88倍となり、前回対比で低下した。  
日銀は14・15日の金融政策決定会合で金融政策の現状維持を決定した。なお、展望レポートでは、20年度の実質成長率を△5.7~△4.5%(4月時点の見通し△5.0~△3.0%)と下方修正した。来週の主な予定は日銀営業毎旬報告(7月20日現在)(22日)、海外では新規失業保険申請件数(7月18日終了週)(23日)がある。

**<オープン市場>**

CP3M(a-1+)	△0.01 ~ 0.01
TDB 3M	△0.120 ~ △0.075
現先(on/1w)	△0.04 ~ 0.00

**<C P>**

今週の入札発行総額は約7,500億円で、週間償還額(約4,200億円)を上回った。5・10日発行での新規案件と電気機器や製鉄業等の大型案件が実施され、活況となった。先週末の市場残高は24兆8,444億円であったが、16日時点では221億円増加し24兆8,641億円と、横ばいの発行残高となっている。発行レートは、浅いマイナスから0%附近での出合いが中心であった。17日に、CP等買入オペが予定通り6,000億円オファーされ、結果は按分レート△0.002%(前回△0.003%)・平均落札レート△0.001%(前回0.000%)とタイトな結果となった。  
来週の週間償還額は、約2,900億円となっている。連休により、営業日が3日しかないため、取引は閑散となると見込まれる。発行レートは、0%前後の横ばい圏内の出合

**<TDB>**

16日の1Y922回債(7/20償還)の入札は、最高落札利回り△0.1637%(前回債△0.1931%)、平均落札利回り△0.1816%(同△0.1961%)となり、入札後△0.177%~△0.182%のレンジで取引された。17日の3M923回債(10/19償還)の入札は、最高落札利回り△0.0822%(同△0.0862%)、平均落札利回り△0.0874%(同△0.0922%)となり、入札後△0.080%で出合が見られた。そのほかセカンダリーでは3M917回債(9/23償還)は△0.092%~△0.095%、同921回債(10/12償還)は△0.085%~△0.09%、6M920回債(1/12償還)は△0.18%のレンジで取引された。

**<レポ>**

足許GC取引は週初△0.06%近辺から始まり、週後半まで△0.09%~△0.07%で推移した。短国3M、1Yの発行が重なった20日受渡しは△0.07%台から始まり、△0.05%台まで上昇した。SC取引は2年409~414回債、5年137~144回債、10年336~359回債、20年168~172回債、30年59~67回債、40年12、13回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。